

# 学校経営計画

## 1 校訓・教育目標

- ◆校訓： 強く 正しく 明るく
- ◆教育目標：心豊かでたくましく生きる子どもの育成

## 2 教育方針

- 知・徳・体の調和のとれた教育を行い、児童の豊かな人間性と確かな学力を育む
- ふるさと諸江を大切にして、地域・家庭と連携した社会に開かれた教育活動を展開する
- 命を大切にし、感動する心を持った児童の育成に向け、教育活動の工夫と環境の整備・充実に努める

## 3 めざす児童像・学校像・教師像

<めざす児童像> 「自らを活かして共に生きる」子をめざして

～集団の中で、より良い自分を求め、

「自分だったらどうするか」を考えながら、生きていこうとする子～

まずは <金沢子どもかがやき宣言> の徹底をめざす

- ・すすんで学び、考えます
- ・きまりや約束を守ります
- ・すすんであいさつをします
- ・笑顔を大切にします
- ・思いやりの心を大切にします
- ・ありがとうございます気持ちを伝えます
- ・毎日元気にすごします
- ・夢に向かって挑戦します

<めざす学校像> **安全・安心、笑顔（いのち）輝く 諸江町小学校**

- 安全に配慮し、そこで生まれる安心感の中でこそ、児童は笑顔で自分の命を輝かせることができる。安全・安心を第一に考えることのできる学校。
- 児童が持っている可能性を切り拓くことために、「健やかな体」「豊かな心」「確かな学力」の体・徳・知の調和のとれた児童の育成を行うことのできる学校。
- 児童・教師が強い絆で結ばれ、さらに児童同士が関わり合う中で、色とりどりの輝きを放つことのできる学校。
- 家庭や地域と共に、心をつなげて児童を育てることのできる開かれた学校。
- 教師も児童も「誇り」を持つことのできる学校。

<めざす教師像>

- 児童の目線で聞き、温かく受け止め、共感できる、深い愛情を持った教師。
- 児童の成長を喜び、常に自分の指導を見直すような、自己研鑽に努める教師。
- 全体の奉仕者としての自覚を持ち、マナー・モラル・ルールを自ら率先垂範する教師。
- いつも礼儀正しく、社会人として、教育者として、保護者や地域に信頼される教師。
- 健康で、ワークライフバランスの取れた教師。

## 4 本校の経営方針、指導方針

- <無理なく> ・教師が元気で笑顔であるために、業務改善をさらにすすめる。
- <無駄なく> ・児童にとって意義あること、児童に力をつけることを効率的に。
- <あたたかく> ・一人ひとりの児童の個性を理解し、ほめて育てる。
- <足並みそろえて> ・何事も「する」と決めたら、ベテランも若手も全員で徹底する。

## 5 中期目標と方策

- (1) 学校生活の安全への配慮と安心感を生み出す工夫で、落ち着いた校内の雰囲気を生み出し、定着させる。
- (2) 基礎・基本的な事項の確実な習得を基盤とし、ICTの活用や見方・考え方を働かせるための手立てによる考え合う授業を通し、学力の向上を図る。
- (3) ベテランや中堅がメンターとなり若手教員を指導する「あいあい研修」を核とし、学校全体で若手教員の指導力の向上を図る。
- (4) 自らの生活を見つめ直す機会を作り、生徒指導の三機能（自己決定、自己存在感、共感的理解）を常に意識することで、共に生きるための力を育てる
- (5) 異学年の交流や自分たちの生活を自分たちで作り出すような特別活動を工夫し、児童の主体性や活動意欲を育てる。
- (6) 学校運営協議会を継続し、地域学校協働活動事業による活動をさらに充実することで、地域・保護者との繋がりを深める。
- (7) 自らの働き方への意識を高め、各職員がワークライフバランスを大切にする。

## 6 今年度の重点的な取組目標と具体的な方策

- (1) 「あたりまえ」を徹底することで、落ち着いた雰囲気を校内に定着させる。
  - ・挨拶、無言清掃、廊下階段の安全な歩行、移動時等の机上・いすの整頓、職員室への出入りのマナーや場・相手に応じた言葉づかい、時間を守って始める活動や授業を大切にする。
- (2) 基礎・基本的な事項の確実な習得を基盤とし、根拠の明確な思考の深まる授業で、学力の向上を図る。
  - ・見方・考え方を働かせるための手立てや思考を深める関わりを学校研究の重点の中に取り入れ、金沢型学習スタイルの具体的な授業イメージを共有した上で授業実践する。
- (3) 「あいあい研修」や学年会を計画的に実施し、若手教員の指導力の向上を図る。
  - ・木曜日の日課を変更し、「あいあいタイム」や「あいあい研修」を月に1回以上実施する。
  - ・定期的にグループの成果と課題を全体で共有し、改善を行いながらすすめる。
- (4) 「諸江こころの日」等を利用して、自らの生活を見つめ直し行動の在り方を考えさせる。
  - ・毎月末にアンケートを行い、児童同士の関係把握や自己の生活を振り返る機会を設定する
  - ・児童同士が個々の良さを認め合い、高め合う学級かを振り返る機会を随時設定する。
- (5) 縦割りや児童会活動の内容や運営の在り方を工夫して、学校生活への満足感を高める。
  - ・児童の自発的企画や自己決定場面への指導を大切にして意欲を促す。
  - ・子どもかがやき宣言をもとに、中学校生徒会と連携した主体的活動に取り組む。
- (6) 学校運営協議会及び地域学校協働活動をさらに推進する。
  - ・学校運営協議会と地域学校協働活動の連携を図り、効率的に学校運営面の改善につなげる。
  - ・学校と地域コーディネーターが連携し、学校ボランティアの人材確保に努める。

## 7 教職員の業務適正化に向けた具体的な取組

- ・業務の平準化をすすめ、時間外勤務時間が80時間を超える職員をゼロにする。
- ・午後8時を最終退校時刻とし、チャイムで知らせると共に管理職から声をかける。
- ・配置された教員業務補助員等の活用を工夫し、勤務や業務の改善を行う。